

意思の力

アストラゼネカ株式会社

笹井 明日香

■ 充実した日々

社会に出てから、はや半年が経とうとしていきます。就職難と叫ばれる中、幸運にも成長産業に入社し、今のところ人生で一番充実した日々を過ごしています。

さて、「幸運にも」とはいえども、苦勞せずというわけではありません。(もともと、私は運には恵まれていない人間ですから)就職活動は三回生の秋から始まり、半年間続きました。人生最大級の壁といえますか、谷底に沈んで二度と這い上がれない経験もしました。

突然ですが、自分をやめたくなったことが、ありませんか？

■ 信念を貫く

私は書道芸術専攻ながら、製菓企業を希望し、望み通りに外資系製菓会社に就職しました。周囲から見れば、むちゃなことをしているようにみえたでしょう。ただ、自信を持つていえることは、私は最初から最後まで自分の信念を貫き通したということです。

自分をやめたくなっても、もう無理だと思っても、その信念だけにどうにか支えられていました。



休日、同僚たちと(前列向かって左)

就職活動は私の人生の大きな転機でした。自分と向き合うことは、実は怖いことです。信念、意思を貫くために、私は自分の嫌いな部分は捨てることにしました。自分自身を変える程の強い意志。それを持てたことが今の私の財産です。

■ 自分を信じる

好きな言葉があります。「やればできる」誰かが知っている言葉です。できない人は、やつていない人です。まだ足りない人です。そして、そのことを、自分ができると信じていない人です。

人生は一度きりです。

今やらないで、いつしますか？ 貴方が今、やろうかな、と考えていることを。

れ ・ こ れ

社会人になつて

京都中央信用金庫 木津支店

吉村 美貴子

■ 今の私

私は今年の四月から社会人となり、京都中央信用金庫木津支店で働いています。もうすぐ半年が経とうとしていますが、まだまだ慣れない日々が続いています。

多くの人と接することができるようになった。仕事かしたい……。あまりに単純すぎるかもしれないが、それが、私がこの仕事を選んだ理由です。しかし、私が多くの人とお客様と接することができるようになったのは、私が思っていた以上に金融知識をはじめ、学ばなければならぬことがたくさんありました。今は窓口の後方で、様々な事務全般をやっています。

■ 金融機関に「むいてる」自分になる

初めのころはミスをする、「自分は金融機関にむいていないんじゃないかな」とマイナス志向になってしまいましたが、最近では「むいてる」自分になっているのも、「むいてない」自分になっているのも、これからの自分の努力次第と思うようにしています。大切なことは同じミスを二度と繰り返さないこと、そしてすぐに気持ちを切り換え

ることにしました。新入職員はいつぱい怒られて当たり前、プラス思考じゃないと、とてもやっていけないと実感したのでした。

■ 休日は必ず遊ぶ

最後に、「休日は必ず遊ぶ」これが私が一週間、仕事をがんばる源です。休日は仕事のことは全て忘れてしっかりと遊んでリフレッシュします。仕事とプライベート、オンとオフの区別をしっかりとつけるようにしています。

これからの社会人生活、今のこの前向きな気持ちを忘れずにいたいと思っています。



同期の友人と(真ん中)

教師生活の

スタート

大和郡山市立

片桐西小学校

田中 志穂

■めまぐるしい毎日

大学を卒業し、教師になって早くも半年がたちました。私は今、小学二年生の担任として、三十人の子どもたちとともに楽しく過ごしています。

自分にとって、この半年は、驚くほど変化のある毎日でした。学級開き、家庭訪問、春の遠足、参観、……どれもこれも初めてのことばかりで、そのたびに、どうしたらいいのかわからず、悩み苦しみ、なんとか乗り越えて、あっという間に一学期が過ぎ去っていきましました。これほどまでに新任教師の毎日が大変だったなんて、学生の頃には想像できなかったものです。



春の遠足で(向かって右端)

■あの頃の思い

ちょうど一年前の今ごろ、教員採用試験を間近に控え、大学で必死に試験対策をしていたことを懐かしく思い出します。

あの頃はひたすら「子どもに夢や希望を与えることのできる教師になりたい」「ひとりの人間として、大人として見本になれる教師になりたい」、そんな理想の教師像を思い浮かべながら、夜遅くまで勉強していました。

自分の無力さが悔しくて涙が止まらなかったことや、自分の失敗の多さに情けなくなっていたことは今までに何度もありました。しかし、そんなときこそ一年前の私を思い出し、ぐっと辛い気持ちをこらえてまた新たな気持ちで教壇に立つのでした。

■教えるプロとしての責任

「先生、一緒に遊ぼう!」。子どもたちから誘われたときは、できるだけ自分の仕事は後回しにして遊ぶようにしています。子どもと一緒に大声を張り上げたり、走り回ったりすることが、子どもとのつながりを深める一番の近道だからです。それができることは新任教師の特権だとも思います。

しかし、新任教師だからといって、教師は「教えるプロ」です。多くの子どもを預かるという責任の重い職業についたことを誇りに思い、これからも日々全力で頑張っていきたいです。

あ と ひ

『NEVER GIVE UP』

決してあきらめない!

大和高田市立

片塩小学校・教諭

佐々木 麻子

■子どもってすごい!!

今、三年生の担任をしています。毎日、子どもたちにくさんのことを教えられています。

本当に子どものパワーはすごい!三十四人の子ども、三十四通りの個性があり、みんな違ってみんないい!!それが一学期を終えた私の感想です。

四月に子どもたちと出会ったとき、様々な期待や理想を持っていました。しかし、授業中立ち歩いたり、文句ばかり言ったり、言うことを聞いてくれない子どもたちにとっても悩み、こんなはずではなかったのにと何度も思ったものでした。

私の中にある経験は教育実習のみ。知識は応用できず、今まで学んだことはなんの役にもたなかつたのです。しかし、そんな私に夢を思い出させてくれたのは私を困らせていた子どもたちでした。

■「先生の笑顔が好きです」

ある子どもの日記に「ぼくは先生の笑顔が好きです。先生が笑顔だとみんな



様原子ども森公園にて

なにも笑顔になります」と書かれていました。

私は毎日、言うことを聞かない子どもたちを怒り、できている子どもを誉めることを忘れていたのです。私の夢は笑顔あふれる学級作りだったのに、自分の思い通りに子どもたちを動かそうと怒ってばかりいたのです。その日記を読んでから、私は誉めるようにしました。すると、今まで落ち着きのなかったクラスが少しずつ落ち着いてきたのです。

■信念を持って子どもとともに成長したい

現在も子どもたちを励まし続けていますが、正直うまくいかないこともあります。「別にいいし」と言われるのです。そんな子どもたちとの闘いはまだまだこれからです。私の信念は「あきらめない」ということです。三学期が終わったとき、最後までやり遂げられる子になってくれるように、あきらめずに指導していきたいと思っています。